

交野市教委ニュース

第92号 (平成30年3月29日発行)

平成29年度末にあたり

平成28年度末には、平成29年3月17日発行の市教委ニュース第56号で「中学校区プラン」が作成されたとお知らせしました。1年経ち、平成30年度に向けての「プラン2018」が作られました。この1年で小中一貫教育の取組みは前進し、理解も深まりました。

各学園（中学校区）で作成された2018版「中学校区プラン」の一部です。



交野が原学園（第一中学校区）は、小中一貫教育のモデル校区です。9年間のカリキュラムの概要版も含めた「交野が原スタンダード」を作成しました。教職員にはさまざま苦勞があったと思います。その中で生まれた「いま 目の前にいる子どもたちが すばらしい大人 社会の一員として 笑顔あふれる人生を 歩んでいますように。」の言葉は、教職員の思いを表したすばらしい交野が原学園の理念であり、そのまま本市の理念にもなります。



たなばた学園（第二中学校区）は、スマホアンケートを校区の小4から中3まで行いました。その数値から小学校の早い段階でスマホの使用についての指導の必要性が見えてきました。教科の連携や系統性のある指導も小中一貫教育では大切ですが、たなばた学園の活動からは、小中一貫教育は学校だけではなく、家庭や地域も一体となる必要性があることがわかります。



星のまち学園（第三中学校区）は、中学生が母校の小学校であいさつ運動を行ったり、5,6年生に講話をする中で、「カッコいい先輩」「あこがれの先輩」の姿を見せてくれました。教職員は、春に総会をして6部門に分かれ小中一貫教育に取り組む体制を作ったり、公開授業にむけての教材研究を中学校区で取り組みました。児童生徒、教職員とも一体感が増したようです。



天の川学園（第四中学校区）は、「中学校の日」を設定し、その日は小学校6年生が1日を中学校で過ごしました。また、中学校区3小学校の2年、4年、6年生は同学年交流を行ないました。中学1年生は母校の小学校に手紙を書きました。小学生には、「小中一貫教育」という言葉からではなく体験から、小学校は違っても同じ中学校になるという意識が生まれました。